

## 親愛なるお客様

平素よりエアバス・ヘリコプターズ・ジャパンに格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年、エアバス・ヘリコプターズは過去最高の受注ペースを記録し、市場を力強く牽引いたしました。この勢いは、弊社の近代的な製品ポートフォリオに対する皆様の信頼の証であると確信しております。特に最新鋭のH160は、フランス国家憲兵隊への初号機納入や豪州Linfox社からの初受注に加え、国内においても広島市消防局への納入や名古屋市消防局からの受注をいただくなど、国内外で着実にその存在感を高めております。

また、将来への投資も加速させています。NATOの次世代回転翼機コンセプトの発表をはじめ、フランス海軍向けAliaca VTOLドローンやフランス国防省向けVSR700、欧州海上保安庁向けFlexrotorといった無人航空機システム(UAS)の分野でも革新を推進しております。

日本国内におきましても、警察庁様より3機のH135を追加発注いただくなど、公的機関の皆様の重要な任務を支えるパートナーとして選ばれ続けていることを、大変光栄に存じます。

さらに、本社ではMatthieu Louvotが新CEO(新最高経営責任者)に就任することが発表されました。ヘリコプター業界で豊富な経験を持つ彼のリーダーシップのもと、私たちは持続的な成長を続けてまいります。新体制においても、引き続き日本の皆様の安全と任務遂行能力の強化に貢献するため、最高水準の製品とサポート、そして専門的な訓練コースを提供してまいります。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

敬具

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社  
最高執行責任者・社長 ジャン・ルック・アルフォンシ



Verticon 2026

## CONTENTS

### インフォメーション / INFORMATION

エアバス2025年ヘリコプター受注実績：  
過去最高の勢いで市場をリード

エアバス・ヘリコプターズ新CEO就任のお知らせ

### 製品 / PRODUCT

警察庁が3機のH135を追加発注、航空隊を拡充

フランス国家憲兵隊へ初号機となる「H160」を納入

韓国警察庁、H225ヘリコプターを発注

豪Linfox社、オーストラリア初となる「H160」を発注

エアバス、NATO研究向けの次世代回転翼機コンセプトを発表

欧州防衛庁、Capa-Xドローンの能力拡充に向けエアバスを選定

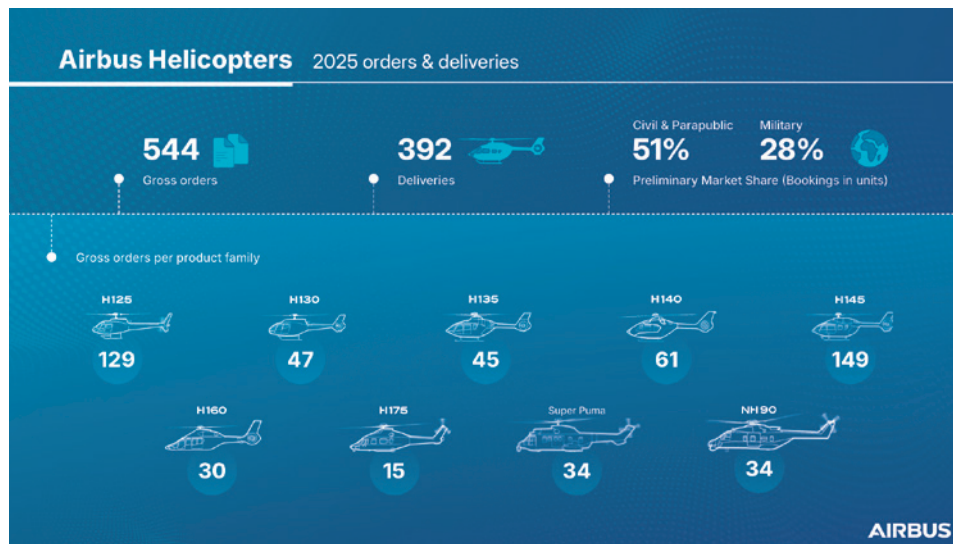
フランス海軍、エアバスの垂直離着陸ドローン「Aliaca」を  
世界初導入へ

フランス、次世代無人ヘリコプター「VSR700」を6機発注

### 訓練 / TRAINING

2026年度 設定訓練コース

## エアバス2025年ヘリコプター受注実績: 過去最高の勢いで市場をリード



数ベースでは、民間・公共市場で51%のシェアを確保し、ミリタリー市場のシェアは28%に上昇しています。なお、2025年のヘリコプター納入数は392機となりました。

エアバス・ヘリコプターズのBruno Even CEO(最高経営責任者)は次のように述べています。

「2025年のエアバス・ヘリコプターズの卓越した業績は、受注機数が約20%増加したことに示されており、当社の近代的な民間・ミリタリーのポートフォリオが、今日の複雑な環境で求められる精密な任務能力を提供していることを証明しています。防衛・安全保障分野への注力はこれまで以上に明確です。さらに当社は、Survey Copterを中核事業に統合し、戦術ドローンの包括的なラインアップを確立することで、UASへの移行を主導しています。ドローンと当社独自の先進技術『HTeaming』を組み合わせることで、現代の戦域にシームレスなネットワーク型エコシステムを提供します。航空宇宙の未来を切り拓く中で、変わらぬ信頼を寄せてくださるお客様に感謝申し上げます」

2025年は主要な政府発注が特徴となり、特にスペインからは100機という記録的なヘリコプターの発注を受けました。内訳は、H145Mが50機、陸海空軍向けのNH90が31機、そして初のH175となっています。ドイツは引き続き装備の近代化を進めており、H145Mの追加20機(総数82機)のオプション権を行使しました。なお、初回バッチのヘリコプターは既に納入済みです。一方、NH90プログラムも新たな勢いを見せています。オランダが3機を艦隊に追加し、ギリシャが重要な追加保守契約を締結しました。また、ドイツは世界最先端の対潜水艦・対水上戦能力を備えた最新進化型「NH90 Sea Tiger」の初号機を受領しています。

大型ヘリコプターの分野では、スーパーピューマファミリーがその多用途性を証明しました。ギリシャが消防用のH215を8機発注したほか、モロッコがH225Mを10機発注する契約を締結し、さらにイラクへの初納入も実現するなど、新たな節目を迎えています。小型双発機も同様に堅調で、H135はスペインから13機、英国国家警察航空隊から7機の発注をいただきました。また、149機の受注を獲得したH145は、民間・公共・ミリタリー市場におけるベストセラー機としての地位を改めて確固たるものになっています。

エアバスは昨年、米国で開催されたVERTICON 2025において、次世代小型双発ヘリコプター「H140」を発表し、垂直離着陸技術の新章を告げました。T字型テールフィンなどの技術的要素を組み込んだH140は、既に61機の確定受注を獲得しています。また、イノベーションは「RACER」においても新たな高みに到達しました。当初の性能目標を上回る巡航速度440km/h(240ノット)を達成し、エアバスがよりシンプルな空力最適化構造で高速性能を実現できる能力を改めて証明しました。

フランス・マリニャンヌ、2026年1月26日 – エアバス・ヘリコプターズは2025年に総受注数544機(ネット:536機)を記録しました。民間・ミリタリーの全機種で堅調な実績を上げる中、市場の力強い成長を浮き彫りにしています。

これらの受注は50カ国205のお客様から寄せられたものです。また、2025年は無人航空機システム(UAS)においても市場の強い勢いを確認しました。受注機

無人機ではSurvey Copterを中核製品群に統合し、包括的な戦術ドローン製品ラインアップを確立しました。豪Drone Forge社および欧州海上保安庁が「Flexrotor」を選択したほか、フランス国防省がVSR700を6機発注するなど、初のUAS契約を締結しています。さらに『HTeaming』を通じ、エアバスは有人・無人機連携の先駆者として、乗員が無人システムをリアルタイムで管理可能な独立型ソリューションを提供し、任務遂行能力を飛躍的に拡大します。

技術的飛躍はH160プログラムにも反映されており、そのミリタリー型であるH160M「ゲパール」は昨年7月に初飛行を完了しました。H160は、中型双発機民間・公共市場2025年新規受注の約50%のシェアを獲得し、成功裏に市場導入を果たしています。法執行機関仕様の初号機がフランス国家憲兵隊に納入されたほか、日本においては広島市消防局への納入と名古屋市消防局からの受注により、消火活動への適用も可能となりました。また、米国エネルギー分野ではPHI Aviation社によるオフショア運用を開始しています。一方、H175は2025年に15機の受注を獲得し、スーパーミディアムセグメントにおける地位を確固たるものとなりました。

この前例のない需要に応えるため、生産拠点の拡大も進めています。インドのヴェマガルでは、世界で4番目となるH125の最終組立ライン(FAL)が2月から稼働を開始しました。

## エアバス・ヘリコプターズ新CEO就任のお知らせ

オランダ・アムステルダム、2026年1月13日 – エアバスSEは、Matthieu Louvotをエアバス・ヘリコプターズの新CEO(新最高経営責任者)に任命することを発表いたしました。

Matthieu Louvotは2026年4月1日付で現職に就任し、エアバスCEOのGuillaume Fauryの直属として、同社の経営委員会の一員となります。

### 新旧CEOの交代について

現在、エアバスの「戦略担当」上級副社長を務めるMatthieu Louvotは、自身の新たな目標を追求するために退任を決意したBruno Evenの後任として、ヘリコプター部門を率いることとなります。

エアバスCEOのGuillaume Fauryは、今回の人事にあたり次のように述べています。  
「過去8年間にわたり、強力なリーダーシップでエアバス・ヘリコプターズを牽引してきたBrunoに、心から感謝の意を表します。彼の在任中、ヘリコプター部門は製品ポートフォリオの拡充と産業システムの変革を成し遂げ、持続可能かつ収益性の高い成長軌道に乗ることができました。彼の新たな門出を心より応援しています。また、ヘリコプター業界における豊富な経験と、運営・戦略の両面で深い知識を持つMatthieuの就任により、スムーズな体制移行が可能になると確信しています。彼の指揮のもと、エアバス・ヘリコプターズがさらなる高みへと到達することを期待しています」

### Matthieu Louvotの経歴

エコール・ポリテクニクおよびエコール・ナショナル・ダドミニストレーション(ENA)を卒業したMatthieu Louvotは、フランス大統領府の産業顧問など、政府機関でのキャリアを経て、2010年にエアバス・ヘリコプターズに入社いたしました。これまで「顧客サポート&サービス担当」や「プログラム担当」上級副社長を歴任しており、現場と経営の両面において確かな実績を積み上げてまいりました。

なお、Matthieuの後任となる「戦略担当」上級副社長については、後日改めて発表される予定です。

## 警察庁が3機のH135を追加発注、航空隊を拡充



エアバスは3月13日、警察庁が保有するヘリコプターの更新に、H135を3機発注したことを発表しました。様々な任務に対応するH135は、北海道、島根、宮城の各道県警察に配備される予定です。パトロール、捜索救助、人員や物資輸送など、多岐にわたる警察活動を強化します。

今回の発注により、警察庁が運用するエアバスのヘリコプターは合計26機に増加し、エアバスと警察庁の長年にわたるパートナーシップはさらに強固なものとなります。

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンのジャン・ルック・アルフォンシ最高執行責任者兼社長は次のように述べています。「警察庁からH135に対する継続的なご信頼をいただいたことを光栄に思います。H135はその高い信頼性と優れた性能により、警察活動に多大な貢献をもたらす機体です。私たちは、警察庁が日本全国で重要な任務を遂行できるよう、包括的サポートを提供することに引き続き尽力してまいります」

今回の発注は、2025年末の広島県警察へのH135納入に続くものです。H135は、現在広島県警で運用されているAS365と連携し、複雑な任務にシームレスに対応できることを実証しています。

エアバスの小型双発ヘリコプターであるH135には最新技術が投入されています。なかでもエアバス・ヘリコプターズのアビオニクス・スイート「ヘリオニクス (Helionix)」は、4軸オートパイロットに加え、状況認識を飛躍的に高める革新的なコックピットレイアウトを実現しています。3つの大型電子ディスプレイを配したコックピットは、暗視ゴーグル (NVG) に対応し、エンジンの主要データを一つのインジケーターに集約し表示するファースト・リミット・インジケーター機能も搭載しています。

神戸にあるエアバス・ヘリコプターズ・ジャパンのH135フルフライト・シミュレーター・センターでは、国内外のオペレーター向けに世界最高水準の訓練プログラムを提供しています。

現在、日本国内では98機のH135が運用されており、そのうち15機が警察任務に運用されています。世界全体では、1,600機以上のH135ファミリーが納入されており、市場をリードしています。あらゆる任務で合計800万時間の飛行実績を誇ります。

# フランス国家憲兵隊へ初号機となる「H160」を納入



フランス・マリニャンヌ、2025年12月16日 - フランス国家憲兵隊(ジェンダルマリ)向けとなる最新鋭ヘリコプター「H160」の初号機が、エアバス・ヘリコプターズ本社での式典にて、フランス国防装備庁(DGA)へ引き渡されました。本機は、内務省に代わってDGAが2021年12月に発注した計10機のH160のうち、記念すべき最初の1機となります。

エアバス・ヘリコプターズのBruno Even CEO(最高経営責任者)は、次のように述べています。

「国家憲兵隊へのH160初号機の納入は、最も過酷な治安維持任務に特

化したソリューションを開発するため、憲兵隊およびDGAと密接に協力してきた成果です。本プログラムは、昨夏に初飛行を行った軍用モデルH160M「ゲパール(Guépard)」の開発を含め、フランスの国防と安全保障の未来に対する当社のコミットメントを証明するものです。これら2つのプログラムの相乗効果は、重要な民間および軍事任務において、かつてないレベルの性能と相互運用性を確保し、フランス軍に直接的な利益をもたらします」

## フリート更新計画：H145との相互運用性を強化

今回の納入は、2025年11月に開始されたH145初号機の納入に続く、国家憲兵隊のヘリコプターフリート(全保有機)更新計画の一環です。H160とH145は、任務能力の面で互いを補完し合う関係にあります。また、両モデルは統合計器「Helionix」や通信システム、ミッション機器の多くを共有しており、整備、訓練、運用のあらゆる面で高い相互運用性を実現します。

## 憲兵隊史上最大の機体をもたらす新たな基準

H160は、国家憲兵隊が運用する史上最大の回転翼機であり、これまで以上の任務遂行能力を提供します。今後のスケジュールと特徴は以下の通りです。

- 実用化へのプロセス：初号機の納入を受け、標準的な受領プロセスや運用統合の準備開始。2027年初頭にかけて、乗員や技術者の訓練・資格取得、運用手順を策定
- 安全性とコストの最適化：欧州航空安全庁(EASA)の認証を受けた新世代機として、飛行安全性の向上と運用コストの削減を両立。合理的な整備計画により、稼働率の新たな基準を打ち立てる
- 包括的なサポート体制：4つの基地に配備される予備部品在庫、テクニカルサポート、コネクテッドサービスを含む、エアバスによる手厚いサポート契約が適用

フランスの治安維持を担う新たな「翼」として、H160は今後その真価を発揮していくこととなります。

## 韓国警察庁、H225ヘリコプターを発注

韓国ソウル、2025年11月24日 – 韓国警察庁は、エアバス製H225ヘリコプター1機を発注しました。これにより、同庁はエアバスの新たな顧客となります。この多目的ヘリコプターは、幅広い公共サービス業務を支える極めて重要なプラットフォームとして、国家安全保障と緊急対応能力の強化に貢献します。

H225は主に法執行活動や対テロ作戦に投入されるほか、捜索救助、人道支援、災害対応などの重要な任務をサポートする予定です。

エアバス・ヘリコプターズのアジア太平洋地域責任者、Vincent Dubruleは「韓国警察庁をエアバス・ファミリーに迎えられることを光栄に思います。H225は、信頼性の高い多任務遂行の「ワークホース(働き者)」として世界的な評価を得ています。同機が警察庁にとって不可欠な資産となり、複雑な任務を精密かつ安全に遂行できるようになると確信しています」と述べています。

「スーパーピューマ」ファミリーの最新型であるH225は、過酷な条件下での高いパフォーマンスに加え、優れた航続距離と積載能力で知られています。機体に搭載された最先端のアビオニクスとオートパイロットシステムは、操縦士の負担を軽減し、安全性をさらに向上させています。

現在、世界中で360機以上のH225およびH225Mが運用されており、累積飛行時間は98万時間に達しています。軍用モデルは、ブラジル、フランス、ハンガリー、インドネシア、イラク、クウェート、マレーシア、メキシコ、オランダ、シンガポール、タイなどで運用されています。



## 豪Linfox社、オーストラリア初となる「H160」を発注



豪ブリスベン、2025年12月10日 – エアバスは、オーストラリア有数の民間物流企業であるLinfox社より、同国初となる「H160」ヘリコプターの受注を獲得しました。Linfox社にとって初のエアバス機購入となる本機は、今後オーストラリア全土の旅客輸送任務に使用される予定です。

今回の受注は、オーストラリア国内で4週間にわたり実施されたデモンストレーション・ツアーの成功を受けたものです。ツアー中、H160は約60回、2,000km以上を飛行し、現地の多様な運用環境に対する高い適合性と次世代機への需要を証明しました。

Linfoxグループの創設者、Lindsay Foxは次のように述べています。

「エアバスH160を受領できることを嬉しく思います。当社にとって初のエアバス機であり、性能、安全性、信頼性において確かな実績を持つエアバス社と、未永い関係を築けることを楽しみにしています」

また、エアバス・ヘリコプターズのOlivier Michalon上級副社長は、「この初受注はオーストラリアにおける重要な節目となります。民間・ビジネス任務から、救急医療や法執行機関などの公的サービスまで、あらゆる任務において卓越した価値を提供できることを確信しています」と期待を寄せています。

### 世界最高水準の技術と快適性

H160は、世界で最も技術が進歩したヘリコプターの一つであり、以下の特長を備えています。

- 直感的な操作性：「Helionix」統合計器により、状況認識能力の向上とパイロットの負担を軽減
- 圧倒的な静音性：革新的な「Blue Edge」メインローターブレードと傾斜型「Fenestron」により、従来型比で騒音を最大50%低減
- 優れた環境性能：サフラン社製「Arrano」エンジンの最適化により燃料消費を18%削減。さらに持続可能な航空燃料（SAF）を50%混合しての飛行も認定取得
- 高い適応力：広いキャビンと迅速に形態が変更可能で、信頼性が最優先される過酷な環境下でも威力を発揮

### グローバルに広がるH160の運用

H160は現在、日本を含むアジア、北米、欧州、中東など世界各国で運用されており、今回のオーストラリアでの受注により、その勢いをさらに加速しています。整備の手間を減らし、コスト効率と稼働率を追求した設計は、あらゆるオペレーターに最適なソリューションを提供します。

## エアバス、NATO研究向けの次世代回転翼機コンセプトを発表



2026年2月23日、フランス・マリニャンヌ – エアバス・ヘリコプターズは、NATOの「次世代回転翼機能力（NGRC）」研究要件に対応するための、次世代回転翼機のコンセプトを発表いたしました。

## 革新的な2つのコンセプトと設計理念

RTXグループのコリンズ・エアロスペース、レイセオン、およびMBDAと共同で開発された本提案には、2つの主要なコンセプトが含まれています。1つは高性能な従来型ヘリコプター、もう1つは軍事パートナーの運用効率と艦隊の補完性を確保する斬新な高速複合機です。

エアバスのNGRC提案の核となる理念は「モジュール性」と「シンプルさ」にあります。その設計哲学は、モジュラー・オープン・システム・アーキテクチャ(MOSA)アプローチを採用することで、製造、保守、アップグレードを容易にし、長期的なコストの妥当性を実現するプラットフォームの提供を目指しています。これら2つのコンセプトは、保守、訓練、兵器、および各システムにおいて高度に連携し、共通性を共有することです。

## Bruno Even CEOによるコメント

エアバス・ヘリコプターズの最高経営責任者(CEO)であるBruno Evenは、次のように述べています。「我々は、欧州が、通常型ヘリコプターと高速回転翼機の両方において、費用対効果、運用効率、および最大限の可用性という観点から、軍事パートナーのニーズに最も適合するプラットフォームを提案できる体制を整えたいと考えています。これら2つのコンセプトは、将来の軍事作戦に関するビジョンやニーズについて、パートナーの皆様とさらなる意見交換を行うための重要な基盤となります。当社は軍用機ラインナップの未来に向けて積極的に取り組む一方で、継続的な改善方針のもと、既存機種種の進化も進めています。例えば、ブロック1および2の研究により、NH90の長期的な進化ロードマップを確立しました。また、H145M、H160M、H225Mからなる当社の製品ラインアップは、軍用ヘリコプターにおける価格、接続性、メンテナンス性の面で新たな基準を打ち立てています。その一方で、次世代回転翼システムの開発も進めており、接続性、サイバーセキュリティ、有人機・無人機連携、多領域共同戦闘、生存性、そして戦闘損傷修復といったモジュラー型マルチプラットフォーム技術を応用しています」

## プロジェクトの背景と技術的優位性

2024年7月、NATO支援調達庁(NSPA)は、NGRCプロジェクトの枠組みにおける概念研究の主導契約をエアバス・ヘリコプターズに授与しました。本プロジェクトでは参加各社が協力し、次世代の中型多用途ヘリコプターの設定、開発、納入、および支援に取り組んでまいります。

エアバスの先進的なコンセプトは、複合型実証機「X3」および「RACER(レーサー)」を通じて培われた、軍用回転翼機と高速飛行に関する豊富な経験に基づいています。この構成は、従来の設計よりも大幅に速い速度を保証するだけでなく、飛行範囲を大幅に拡大し、急速な加速・減速能力という独自の性能を提供するとともに、急上昇・急降下能力を実現します。追加された主翼とプロペラの利点は、欧州次世代回転翼機技術プログラムの一環として、RACERを用いた軍用パイロットによる飛行評価で確認済みです。お客様からの運用フィードバックに基づくこれらの広範な飛行試験の知見が、今回提案する次世代能力の確かな基盤となっています。

# 欧州防衛庁、Capa-Xドローンの能力拡充に向けエアバスを選定

2026年3月4日、フランス・マリニャンヌ – エアバス・ヘリコプターズは、子会社であるSurvey Copterを通じて、欧州防衛庁 (EDA) の「マルチミッション無人航空機システム (M2UAS)」プロジェクトに選定されました。



今回の戦略的契約は、総予算約110万ユーロ、48か月にわたる一連のプロジェクトの一環です。構成や搭載品 (ペイロード) に応じて多種多様な任務を遂行できる、ハイブリッド無人航空機の研究開発を対象としています。

## 革新的な欧州防衛能力の開発に向けて

エアバス・ヘリコプターズのCapa-Xプログラム責任者であるChristophe Canguilhemは、次のように述べています。

「EDAが当社に寄せてくださった信頼に深く感謝いたします。今回の選定は、当社の戦術ドローンシステムにおける専門性が高く評価された結果であり、革新的な欧州防衛能力の開発を支援するという当社のコミットメントを反映したものです。Capa-Xシステム

の特性は、今回のM2UASプロジェクトに極めて適しており、同時に軍のニーズに合わせて調整可能な、拡張性の高い運用ソリューションを提供いたします」

## プロジェクトの展望とCapa-Xの役割

M2UASプロジェクトは、無人航空システムCapa-Xを基盤とし、既存プラットフォームの能力強化と拡張を目指します。最初の12ヶ月間 (第1フェーズ) では、現在および将来の軍事作戦におけるニーズの分析、技術的課題の評価、そして開発の方向性の特定に専念します。このプロセスを通じて、Capa-Xの汎用性、効率性、および多任務遂行能力を向上させるための、最適な技術選択を行います。最終的に本プロジェクトは、以下の幅広い任務を遂行可能な新型ドローン・アーキテクチャの定義に貢献し、欧州の無人航空システム分野における能力を強化することを目指しています。

- 監視および偵察
- 電子戦
- 空中装備の投下と運用
- 自動空中給油

## Capa-Xの主要諸元

Capa-Xは、120kg級の多目的ドローンであり、以下の優れた性能を有しています。

- データリンク距離：100km
- 航続時間：10時間
- 最大ペイロード：20kg

そのモジュラー設計により、各国の政策決定機関、軍、さらには民間・公共事業者のミッションや規制要件に対し、柔軟かつ容易に適応することが可能です。

# フランス海軍、エアバスの垂直離着陸ドローン「Aliaca」を世界初導入へ

フランス・マリニャンヌ、2026年2月3日 – フランス国防装備庁(DGA)は、エアバス・ヘリコプターズ(子会社Survey Copter経由)に対し、海軍向け小型搭載ドローンシステム「SMDM」の新バージョンを発注しました。この無人航空機システム(UAS)は、新たに垂直離着陸(VTOL)仕様で納入されます。DGAは2022年以降、フランス海軍向けに計34基のAliacaシステムを発注しており、新型機の納入は、認証試験を経て2026年5月に開始される予定です。



エアバス・ヘリコプターズのAliacaプログラム責任者であるChristophe Canguilhemは、次のように述べています。

「フランス海軍に初めてVTOL型Aliacaを納入できることを誇りに思います。フランス海軍は数年にわたり、艦船および陸上からAliacaを運用し、成功を収めてきました。フランス海軍で「SMDM」と呼ばれる本機は、運用においてその全能力を発揮しています。VTOL化により、フランス海軍はAliacaをさらに柔軟に運用できるようになります。当初契約へのこの修正は、当社のソリューションが成熟し、世界中の顧客に提供可能となったことを示しています」

## 1年未満で開発された高性能な戦術ドローン

VTOL型Aliacaは、2024年末から2025年にかけて陸上および海上での試験を実施しました。2025年4月に公開されたこのモデルは、フランス海軍での実戦運用実績のある機種を基に、1年未満という短期間で開発されました。この戦術用小型ドローンは4基のプロペラを搭載し、垂直離着陸を可能にすると同時に、任務中は固定翼推進モードを維持します。主なスペックは以下の通りです。

- サイズ・重量：翼幅3.5m、全長2.1m、最大離陸重量25kg
- 性能：2時間の航続時間と50kmの航続距離
- 装備：高性能ジャイロ安定型電気光学/赤外線システム、数百キロ圏内の船舶を識別可能な自動識別システム(AIS)

## 運用効率の向上と今後の配備計画

SMDMのこの進化形は、既存システムの性能とアーキテクチャを維持しつつ、発射・回収システムが不要となったことで、展開時間の短縮とロジスティクス負荷の軽減を実現しました。運用者はまた、既に実績があり操作性の高さで評価されている地上ステーションを継続して使用することが可能です。DGAの認定を受け、2022年よりフランス海軍の「遠隔双眼鏡」として運用されているSMDMは、現在、哨戒艦(PHM:外洋哨戒艦、POM:海外哨戒艦)および監視フリゲートに搭載されています。また、2023年夏からは、英仏海峡における搜索救助任務のため、フランス沿岸からも展開されています。今後、このVTOL型は、戦術的状況認識の維持や違法活動対策、交通・沿岸監視、搜索救助、不審行動検知など多様な任務を遂行するため、フランス海軍の他の艦艇にも配備される予定です。長期的には、沿岸監視ネットワークを支援するための陸上運用も計画されています。

この新型SMDMは、2026年初頭にDGAによる認証段階に入り、その後運用開始が宣言される予定です。なお、従来の「固定翼」仕様のSMDMも装備艦艇への搭載を継続し、少なくとも7年間は運用可能な状態を維持します。

# フランス、次世代無人ヘリコプター「VSR700」を6機発注

フランス・マリニャンヌ、2026年1月16日 – フランス国防装備庁(DGA)は、エアバス・ヘリコプターズおよびナバル・グループに対し、無人航空機システム(UAS)「VSR700」6機の生産契約を正式に結びました。本機は2028年よりフランス海軍において運用が開始される予定です。

エアバス・ヘリコプターズのBruno Even CEO(最高経営責任者)は、次のように述べています。

「2025年のパリ航空ショーでの合意に基づき、フランス国防省がVSR700プログラムを量産という次の段階へ進める決定を下したことを光栄に思います。当社はフランス海軍の主権強化と任務成功を支援するため、信頼性の高い高性能ツールの提供に全力を尽くします。また、本プログラムの成功を確実にするため、量産専用の新たな生産体制を構築しました。これにより、航空安全と性能の最高基準を維持しながら、UAS市場の特性に適応した効率的な規模拡大が可能となります」



## 高度な情報収集能力と艦艇への統合

今回発注されたVSR700は、監視レーダー、電気光学システム、自動識別システム(AIS)受信機で構成される情報収集・監視・偵察(ISR)仕様で納入されます。また、共同受注したナバル・グループが、ミッションシステム「Steeris®」を用いることで、本機を艦艇全体のアーキテクチャに統合し、戦闘システムとのシームレスな相互接続を確保します。

## 実績ある機体をベースにした多目的UAS

VSR700は、ヘリコプター・ギンバル社の有人機「カブリG2」をベースに開発された軍民両用のUASです。海軍仕様は、フランス海軍およびDGAのSDAM(海軍無人航空機システム)プログラムの枠組みにおいて、ナバル・グループの協力のもと開発・試験が進められてきました。

本機の特徴と役割は以下の通りです。

- 有人機の補完：有人ヘリコプターと連携して展開されることで、艦艇の情報収集能力を拡張し、長時間の監視任務が可能
- 多様な任務への適応：フランス海軍ではISR構成で使用されますが、本来は多目的UASであり、兵站支援や武装偵察、さらには消防活動や災害救援といった民間任務にも活用可能
- 有人機との連携：エアバスの『HTeaming』ソリューションにより、有人ヘリコプターとの高度な連携能力も実証済み

VSR700は、陸上および海上での広範な試験を経て、いよいよ実戦配備に向けた量産フェーズへと移行します。

## 2026年度 設定訓練コース

2026年3月末時点で予定する2026年度の訓練コース空き状況をご案内いたします。ご興味のあるコースがありましたらお問い合わせをお願いします。

(お申し込みには受講要件を満たしている必要がございます。また最少催行人数は2名となっておりますので、これを満たさない場合は訓練を実施しない場合がございます)

各コースとも、訓練開始までに空席がある場合、弊社社員が聴講生として参加する場合があります。ご了承ください(一部例外を除き座学の最大受講人数は8名を基本としております)

### ■ 2026年度 操縦士訓練

コース名		期間(日程は変更となる場合がございます)	受講要件	申込可能	備考
H160	型式限定変更座学訓練	学科：2026年4月6日(月)～4月17日(金)	A	○	(注1)
H135	ガイドライン訓練	学科：2026年6月8日(月)～6月17日(水)	B	○	(注2)
H160	型式限定変更座学訓練	学科：2026年6月1日(月)～6月11日(木)	B	○	(注1)
AS365N3+	型式限定変更座学訓練	学科：2026年4月13日(月)～4月23日(金)	B	○	(注1)
H225	型式限定変更座学訓練	学科：2026年7月27日(月)～8月7日(金)	B	○	(注1)

受講要件:

A：有効な技能証明書、航空身体検査証明書、特定操縦技能審査および陸上多発タービン機の型式限定

B：有効な技能証明書、航空身体検査証明書、特定操縦技能審査および陸上多発タービン機

C：有効な技能証明書、航空身体検査証明書、特定操縦技能審査

(注1)：座学訓練終了後、海外FFSを使用した訓練、お客様基地でお客様保有の機体を使用した実機訓練や実地試験支援をご希望の場合は別途お問い合わせください。その場合、訓練生は型式限定の技能証明(T類)を保有していることが前提となります。

(注2)：実機を使用した訓練を希望される場合は別途お問い合わせください。(お客様所有の機体を使用し、お客様基地で実施となります)

■ 2026年度 整備士訓練

コース名		期間(日程は変更となる場合がございます)	受講要件	申込可能	備考
H135	メーカー標準(OEM)訓練 (Helionix機)	座学：2026年4月9日(木)～4月17日(金) 予定 モックアップ実技：2026年7月23日(木)～7月31日(金)	A	残り 2名	(注1) (注2) ※4/11(土)も 訓練実施
H135	ガイドライン訓練 (T2,P2,T2+,P2+,T3,P3)	座学：2026年5月19日(火)～5月28日(木) 予定 モックアップ実技、FFS試運転： 2026年8月18日(火)～8月26日(水)	A	△	
H135	型式内移行訓練 (T3/P3まで→Helionix機)	座学：2026年9月7日(月)～9月11日(金)	A	○	
H135	ガイドライン訓練 (T2,P2,T2+,P2+,T3,P3)	座学：2027年1月6日(水)～1月18日(月) 予定 モックアップ実技、FFS試運転： 2027年1月19日(火)～1月27日(水)	A	△	
AS365 N3+	メーカー標準(OEM)訓練 一等航空整備士新規 型式限定変更訓練対応	座学：2026年5月18日(月)～6月5日(金) 予定 モックアップ実技：2026年6月8日(月)～6月11日(木)	A,B	残り 1名	
H215	Mechanic B1,B2コース	座学：2026年5月25日(月)～6月24日(水)	B	残り 2名	AHTA (フランス) の教官および通訳 での訓練をAHJ神戸 で実施

受講要件:

A：二等航空整備士(回)タービン機等級限定以上

B：二等航空整備士(回)一等航空整備士

(注1)：座学訓練のみ受講を希望される場合は別途お問い合わせください。

(注2)：試運転訓練を実施し、ガイドライン訓練としての訓練をご希望の場合はお客様基地でお客様保有の機体を使用しての実施となりますので、別途調整となります。

または各CSM (カスタマーサポートマネージャー) まで